

●往昔何レノ御宇ニヤアリケン、今ノ彼杵村ノ虚空ニ當リテ怪シキ物出現セリ、  
郷人奇異ノ思ヲナシ神樂ヲ奏スレバ漸々舞降り諸人歡喜シテ之ヲ見ルニ杵ニテ  
ゾアルナル、因テ彼杵ヲ祝祀セシム、爾來彼杵ノ天降ル所ヲ傳ヘテ彼杵ノ莊ト  
云フ、其頃行基菩薩當國ニ止錫アリ彼杵降リタル所ニ一字ヲ創建シ其杵ヲ以テ  
自ラ彌陀ノ尊像ヲ作りテ安置シ大御堂ト稱ス。

●弘法大師支那ニ渡リ陀羅摩國威摩大王ヲ導キ歸リ、竹崎ヨリ上陸シテ太良嶽ニ  
至ル、大王ノ名ヲ探リテ太良嶽ト稱ス、多良村ハ其駐在地ナリシニヨリ土地繁  
昌セリ、太良ノ名稱ヲ探ルハ禮ヲ失フニ依リ故意ニ多良トナセリ、大王來ルト  
キ籬ニ上乘シ其尾ヲ帆柱岳ノ頂上ニ樹テ其上ニ御幣ヲ結ヒシモノナリト云フ。  
●經ノ岳ハ弘法大師ノ經ヲ捧ケシ所ナリト云ヒ又往昔此絕頂ニ壺ニ經文ヲ入レテ  
納埋セシ所ナルカ故ニ經ノ岳ト號スト云フ、土人曰ク此經ノ岳ハ上古、或時ハ  
高ク又俄ニ低クナリ高低更ニ定マラス種々ノ奇怪アル故ニ此絕頂ニ經文ヲ藏メ  
シ所、其後怪異止ムト云フ。

以上ハ大村郷村記ヨリ抄録セシモノ及ヒ里人ヨリ聽聞セシ所ヲ錄シタルモノナル  
カ此外ニ我地域内ニ存スル湖沼築堤ノ年代、島嶼ニ關スル地理的記事アリ。  
●本火山活動或ハ變動ニ關シテハ更ニ傳ハルモノナク多良嶽火  
山ハ實ニ有史以來全ク活動消滅ノ状態ニアリト謂フベシ。

## 第四編 結論

### 第一節 第三紀時代ニ於ケル地形變遷ノ歴史

第三紀時代ニ於ケル地域ノ地形ノ有様ヲ考察スルニ抑モ九州  
北西部ナル有明海、大村灣、長崎附近ニ發達スル第三紀層ハ新  
古ノ二層ヲ區別シ得ベク古層ハ主ニ砂岩、泥板岩ヨリ成リテ  
其本源ヲ酸性ノ深造岩ニ仰ギ中新期成生ニ屬シ、新層ハ凝灰

質岩石ニシテ其源ヲ火山岩ニ仰ギ最新期ニ屬スルモノナリ。

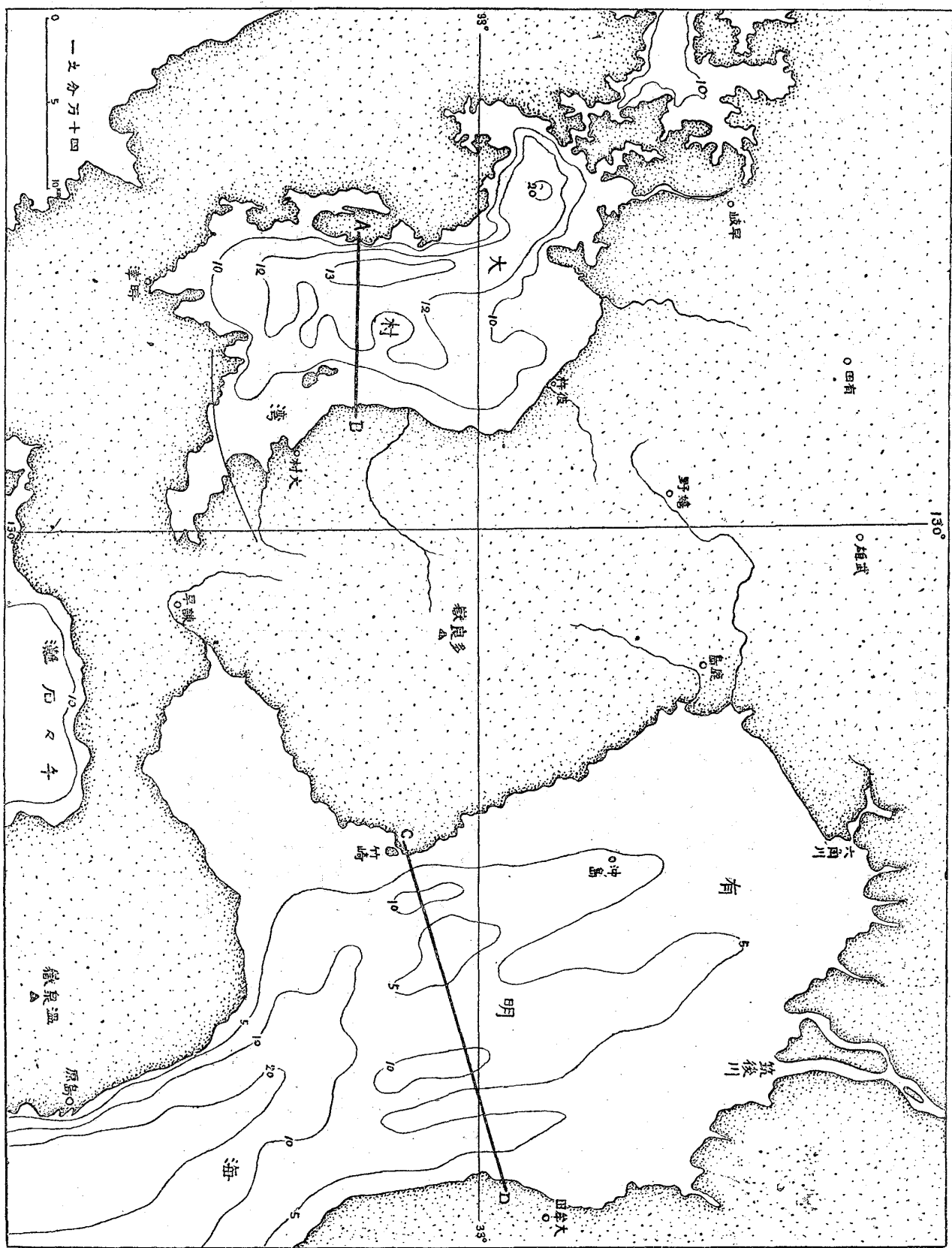
大村半島ニ發達スル第三紀層ハ中新期ニ屬スル古層ニシテ其  
新層ヲ缺クハ古層沈積後上昇シテ陸地トナリ新層沈澱スルコ  
ト能ハザリシカ或ハ新層ガ局部的ノ成生物ナリシ爲メ此所ニ  
之ヲ見ザルナリ、此古層ガ其成生後、地殼運動ノ影響ヲ被リ  
シハ其層ノ著シク傾斜スルコトニヨリテ明カニシテ現今第三  
紀層露出ノ最上部ハ海拔百米突(俵坂ニ例外アリ  
テ二百米ニ達ス)以下ニ過ギザル  
ハ其當時ノ地貌ガ甚ダシク急峻ナラズ低キ丘陵地ヲ作り居リ  
シコトヲ想像セシム、未ダ有明海ナク、大村灣ナク東西相連  
互ノ陸地ヲ形成セリ。

然ルニ最新期ニ至リ地殼運動ハ次第ニ原形ヲ破壊シ火山活動  
旺盛トナリ各種ノ鎔岩ヲ噴出シ地貌全ク一變スルニ至レリ、  
今其原因結果ヲ綜合スルニ

最初現今ノ多良嶽火山中央部ヲ通ジテ東西ニ走ル地溝線ア  
リ、第三紀層ノ露出ガ地域ノ北部及ビ西南部ニ限ラレ而モ夫  
レガ玄武岩ニ被ハル、ニ係ラズ中部及ビ東西部ニ於テ假令上  
乗スル玄武岩ヲ見ルト雖モ其下部ノ第三紀層ヲ見ル能ハザル  
ハ東西線ヲ通ジテ陷落帶ノ存在スルコトヲ示シ其線ニ沿フテ  
鎔岩ノ噴出ヲ見ルニ至レルニ由ルナリ。

有明海、大村灣底部ノ地形ヲ水路部出版島原海灣及ビ九州北

大村灣及有明海深度圖



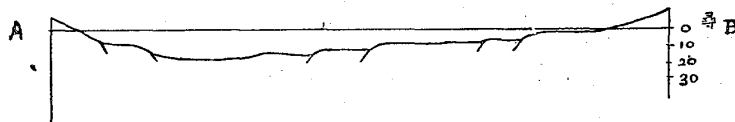
第四圖

西部海圖ニ就テ見ルニ(第四圖)大村灣ノ最深度ハ二十尋ニシテ灣ノ北西部ニアリ、南半部ノ最深ハ十三尋ニシテ其等深線ハ西彼杵半島ノ東岸ニ接シ南北ニ延ビ北ハ北西隅ノ二十尋ノ地點ニ續ク、而シテ灣ノ中心部ハ十二尋深度ノ面積最モ廣ク、東、大村半島ニ近ヅキテ漸次深度ヲ減ズ、今東西線斷面圖(第五圖)ヲ見ルニ其線上ノ四分ノ三ハ乃至十三尋ノ水深ニシテ殆ンド平坦トモ謂フベク灣ノ西部ハ急斜ヲ以テ西彼杵半島ニ連續スルニ係ラズ、東部ハ郡川ノ沈積物ニ依ルトハ云ヘ前者ヨリモ緩慢ナル傾斜ヲ以テ大村半島ニ接ス、然レバ大村灣ノ成因ハ階段斷層ニヨリテ生ジタル非對稱的ノ地溝部ニシテ其中央部ノ東ニアリテハ少クモ四段、西部ニハ二段ノ斷層ヲ想定ス、鬣島ハ此ノ階段ノ一ナリ、此斷層作用タルヤ第三紀末葉ノ出來事ニシテ斷層線ニ沿フテ白島、箕島等ノ玄武岩噴出セリ。

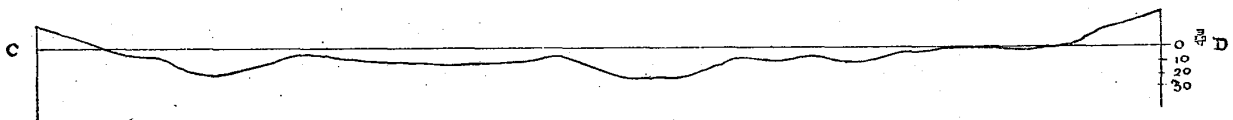
●●●●●  
有明海ハ北半ヲ前海<sup>マヰ</sup>ト稱シ深所ハ竹崎ノ沖ニ在リテ南東ニ延ビ溫泉火山ノ東海岸ヲ走リ天草島ニ向フ、前海ニ於ケル最深ハ十四尋ヲ越エザルモ島原沖ニテハ二十八尋、尙ホ南方ニアリテハ七十尋ニ達ス、而シテ深所ハ大村灣ト同様、灣ノ西部ニ偏在ス、前海ノ北部ハ佐賀方面ヨリスル六角川、早津江川、筑後川等ヨリ排泄スル土砂沈澱物ニヨリ淺メラレ其沈積物ノ

第五圖

大村灣斷面圖



有明海斷面圖



縮尺 水平直 一七九千六百三十一丈

延長、河口ヨリ二十五軒ニ及ビ而モ三尋ヲ越エズ、海岸ハ全ク泥海ヲナス、第五圖東西斷面圖ハ竹崎ト大牟田トヲ結ビシ線ニシテ兩岸ニ近ク各々十尋以上ノ長方形深所アリテ南々東、北々西ニ走リ最深十四尋ナリ、其間ハ二乃至九尋ノ波狀地形ヲ呈ス。

我地域内ニ於テ有明海方面ニ第三紀層露出ナク從ツテ火山噴出前ノ地殼變動ハ之ヲ確カム

ルニ材料ナク、有明海成因ニ關シテハ不明ナリ、或ハ大村灣ト同ジク南北ニ走ル地溝帶ニアラザル歟。

此兩海ヲ連ヌル東西地溝線ハ彼ノ瀨戸内地溝帶ト果シテ關聯アリヤ、而シテ瀨戸内地溝ハ阿蘇水道(5)ヲ經テ多良嶽地域マデ及ベルモノナリヤ、多良嶽地域ニ於ケル斷層成生ノ機、不明ナルヲ以テ彼我同時代成生ナリト斷言シ能ハザルモ玄武岩讚岐岩等ノ噴出岩露出状態ヲ比較スルトキハ兩者餘リ相遠カラザル時代ニ地溝ヲ生ジタルモノナルベシ、然ルトキハ多良嶽地域ノ斷層ハ瀨戸内斷層線ノ連續ナルカ或ハ少クトモ後者成生ノ餘波ニヨリテ生ゼシモノナルベク、有明海及ビ大村灣ハ更ニ此東西斷層ニ直交スル階段斷層ニヨリテ成生セラレシモノト謂フベシ。

次ニ本火山活動成生時代ナリ、此事ニ關シテハ前記ノ如ク第三紀古層タル砂岩及ビ泥板岩ハ中新期ニ屬シ其當時火山活動ノ無カリシハ明カナリ、新層タル最新期ハ凝灰岩層ニヨリテ代表セラレ夫ヲ誘導セシモノハ火山爆發ニヨルモノナレバ此時既ニ火山活動漸ク其緒ヲ得タルモノト謂フベシ、即チ噴出ノ初期ハ第三紀末葉ニシテ第四紀ノ初葉ニ至リテ其活動ヲ停止セリ。

第三紀層中ノ東西ニ走レル地溝線ハ其延長幾許ナリシカ詳カ

ナラザレドモ少クモ現今ノ大村半島中央部ノ東西直徑ヲ有シタリ、此地溝線ハ恰モ地殼ノ弱點ニ相當セシヲ以テ地下ヨリ岩漿ノ噴出ヲ誘ヒ終ニ地上ニ溢レテ鎔岩流トナリ或ハ爆發ニヨリテ岩片ヲ抛出シ局部的ニ集塊岩ヲ形成スルニ至レリ、此時ノ岩石ハ(a)玄武岩ニシテ廣ク四方ニ流出シ現今ノ状態ヨリ察スルニ其噴出口ハ火山中央部ニ存在シ地上ノ狀況ニヨリ或ハ遠ク流レ或ハ近ク固マリテ高原ヲナシタリシモ其高標五百米ヲ越エズ比較的溫和ナル山容ヲ呈ス、一方西部日ノ岳ニアリテハ第三紀砂岩ヲ突破シテ玄武岩ノ噴出アリ、臼島、箕島ノ小丘モ亦此時代ニ形成セラル、當時ノ噴火ハ海底又ハ陸上孰レノ噴火ナリシヤヲ考フルニ岩石學上ヨリ海底噴火ノ證左ナク、唯地形上或ハ裾野ノ一部分ガ海水ニ浸サレタルノ状態ニ在リ、當時ハ有明海、大村灣ヲ境スル諫早ノ地峽ハ甚ダ狹ク唯、上山御館山ノ第三紀層ガ兩海ノ連絡ヲ妨ゲ、西部、大村松原間ノ大村平原ナク、北方鹿島方面モ深ク西ニ入江トナリ陸地ノ面積現在ヨリモ甚ダ狹小ナリキ。

次デ大爆發的噴火ヲナシ廣大ナル(b)塊泥岩ノ分布ヲ見ルニ至レリ、塊泥岩タルヤ其分量ノ大ナルト分布上ヨリ考フルトキハ前者玄武岩ト同ジク中央部ヨリ出テ主ニ南部、東北部ニ流下セリ、此噴出ハ海水中ニ起リ玄武岩噴出後地盤ハ低下シテ

海中ニ没シ烈シキ爆發的噴火ニヨリ火口ヨリ流出シ大岩塊サ  
ヘモ押流サレテ玄武岩ノ比較的ニ高カラザル且ツ分布少ナキ  
所ニ堆積セリ、本噴出物ヲ構成セルハ兩輝石アンデシ  
テ多良嶽地域ニ於テ其原岩ノ露出ヲ見ズ。

火山ノ形體ハ低ケレドモ漸クニ其基礎ヲ完成シ凹地窪所ハ塊  
泥岩ニ埋モレ垂直的出入ハ簡單トナレリ、火山活動ノ勢力ハ  
益々旺盛ヲ極メ引續キ(c)紫蘇輝石アンデシ岩ノ噴出トナリ塊  
泥岩上ニ岩鎧ヲ被ラシメ山容漸ク整フニ至ル、此鎧岩流ハ中  
央火口ヨリ四方ニ射流シ或ハ玄武岩上ニ、或ハ塊泥岩上ニ堆  
積シ舌狀尖端ヲ以テ山麓ニ終リ、中央部ニアリテハ高峻巍峩  
タル山嶺ヲ作り中央ニ噴火口ヲ抱キ「ホメート」ヲナセリ。  
(d)角閃石アンデシ岩ハ次デ同ジク中央部噴火口ヨリ出テ多良  
嶽系、五家原岳系ヲ構成シ別ニ西ニ寄生的ニ遠目山、郡岳ヲ噴  
出セリ、之ト前後シテ西部玄武岩地ニ南北線ニ配列シテ無留  
路山、高峯山、中尾山ノ角閃石アンデシ岩ノ噴出アリ、又北  
方玄武岩上ニ(e)讚岐岩ノ噴溢アリ臺地ヲナシテ其西隣ノ玄武  
岩臺地ト相並坐セリ。  
紫蘇輝石アンデシ岩及ビ角閃石アンデシ岩ノ噴出ガ尙海中ニ  
テ行ハレシハ同岩中ニ「クリ」輝石及ビ石基中ニ長石斑點構  
造ノ存在ニヨリテ明カナリ、而シテ本火山ノ上部ハ既ニ海面

上ニ露出シ居レリ。

此ノ如ク火山本體ハ角閃石アンデシ岩ノ噴出ニヨリテ少シク  
紫蘇輝石アンデシ岩時代ノ「ホメート」山ヲ損シ、西側ノ角閃  
石アンデシ岩、北部ノ讚岐岩噴出ニヨリテ原形ノ破壞セラル  
ルモノ尠ナカラザリシモ尙建設的タリシヲ失ハザリシガ火山  
活動茲ニ其終結ヲ告ゲ、高所ニ浸蝕作用、低所ニ沈積作用行  
ハレ原形次第ニ改マリ第二次形ヲ現出スルニ至レリ。

本火山中ノ溪谷ニシテ地溝線ニ直接關係ヲ有スルモノナク、  
彼ノ火口ヨリ西走シテ大村灣ニ注入スル郡川ノ如キモ紫蘇輝  
石アンデシ岩流ヲ穿破深刻シ、其兩岸ニ岩流斷面ヲ示シ明カ  
ニ該川ガ火山活動屏熄後發達セシコトヲ證ス。其他中央部ヨ  
リ射出スル諸溪皆然ラザルハ無シ、郡川ノ沈澱物ハ其河口ニ  
大村平地ヲ作り、本明川ハ諫早東部ノ肥土ヲ、鹽田川、濱川  
等ハ鹿島ノ平地ヲ構成シ漸ク現今ノ地貌ヲ呈スルニ至レリ。

## 第二節 火山構成岩ニ就キテ

基底玄武岩ニ六種類ヲ區別ス。其最モ多量ナルハ普通斜長石  
玄武岩及ビ透輝石玄武岩ナリ、玄武岩中特殊ノモノハ裏見瀧  
露出ノトラキ玄武岩ノ存在ナリ。

紫蘇輝石アンデシ岩ハ何レモ灰白色中粒乃至小粒狀ノ斑晶岩  
ニシテ紫蘇輝石ノ量ハ常ニ普通輝石ヨリモ多シ、此アンデシ

岩ヲ大和二上山又ハ四國北岸ニ發達スル斜方輝石アンデン岩ニ比較スルニ石基大ニ類似シ玻璃質ヲ交ヘタル斜長石微晶ヨリ成リ古銅輝石ニ似タル斜方輝石並ビニ少量ノ單斜輝石ヲ含有ス、斜方輝石斑晶中ニハ光軸面ガ010面ニ直角ナル「クリノ」輝石アリ。

更ニ角閃石アンデン岩ニ見ルニ彼ノ南日本内側系ト稱シ山陰道ノ大山、三瓶山、青野山ヲ經テ姫島ニテ九州ニ渡リ二子、由布、九重、阿蘇山等ヲ經テ温泉嶽ニ連ル火山帶ニ於テ見ラル、岩質粗斑狀ノ單斜輝石ニ乏シキ角閃石アンデン岩無ク、四國北岸ニ噴出スル小形長石斑晶ヲ有スル中粒質角閃石アンデン岩ニ類似ス、地域内ノ角閃石アンデン岩ハ其構造ハ前記紫蘇輝石アンデン岩ニ甚ダ酷似シ唯角閃石ノ有無ニヨリテ其名稱ヲ異ニスルニ止マリ紫蘇輝石アンデン岩ノ一變種ト見做スベキモノアリ。

彼ノ火山臺地ヲナセル長石質讚岐岩ノ種屬モ瀬戸内系ノ夫レト似、其間ニ密接ナル關係アルヲ示ス。

是等ノ岩石上ノ見地ヨリシテ多良嶽地域ハ實ニ瀬戸内系ニ屬スベキ岩石區ヲ共有スルモノナリ。而シテ瀬戸内系諸岩ノ噴出期ハ南日本内側系諸岩ヨリモ古期ニ屬シ今ハ全ク火山活動ノ勢力ヲ失フ。

茲ニ特筆スベキハ火山岩噴出ノ順序ガ四國ニ比シテ轉倒シ居ルコトナリ、四國ニ於テハ噴出ノ順序ハ酸性ヨリ次第ニ基性ニ移進スルニ當地域内ニ於テハ之ト反對ニシテ基性ナル玄武岩ニ始マリ、酸性ノ長石質讚岐岩ニ終結セリ。

デリー氏曰ク(20, 21)太平洋島ニ於テハ橄欖石斜長石玄武岩ハ輝石アンデン岩ト共生スル場合多ク兩者ハ無橄欖石玄武岩、斑糲岩、輝綠岩等ト共ニ漸移的變種ニ屬ス、而シテ是等ハ鹽基性玄武岩々漿ヨリ重力分化ニヨリテ誘導セラレシモノナリト。當地域ニ於テモ玄武岩々漿ヲ以テ母漿トナシ重力分化ニヨリテ次第ニ酸性岩ニ傾キツ、噴出セルモノナルベシ。

參照書目

- (1) 大湯正雄 二上火山地質調查報告(震災豫防調查會報告第七十二號、明治四十三年)
- (2) 大日方順三 長崎圖幅地質說明書(農商務省地質調查所、大正二年)
- (3) 山下傳吉 熊本圖幅地質說明書(同上)
- (4) 駒田亥久雄 温泉火山地質調查報告(震災豫防調查會報告第八十四號、大正五年)
- (5) 伊木常誠 阿蘇火山調查報告(同上第三十三號、明治

- 三十四年)
- (6) 神津俣祐 松山圖幅地質說明書(農商務省地質調查所、明治四十三年)
- (7) 地震調査報告(長崎測候所、大正四年)
- (8) 大村郷村記
- (9) Powers, S., Volcanic Domes in the Pacific. (Am. Journ. Sci. Vol. XLII. No. 249. 1916)
- (10) Naumann, E., Ueber den Bau und die Entstehung der Japanischen Inseln. S. 57—60. 1885.
- (11) Harada, T., Versuch einer tektonischen Gliederung der Japanischen Inseln. 1888.
- (12) Harada, T., Die Japanischen Inseln. S. 31. 1890.
- (13) Richthofen, F. v., Geomorphologische Studien aus Ostasien. (Sitz. d. kön. Preuss. Akad. Wiss. Bd. XL. 1903).
- (14) Kotó, B., On the Volcanoes of Japan. (Journ. Geol. Socó Tokyo. Vol. XXIII. No. 273. 1916.)
- (15) Sudzuki, M. Geology of Takeo Districts, in Prov. Hizen. Manuscript. 1916
- (16) Kozu, S., Preliminary Notes on Some Igneous Rocks of Japan. (Journ. Geol. Vol. XIX. 1911.)
- (17) Schneider, K. Die Vulkanischen Erscheinungen der Erde 1911.
- (18) Andersen, O., System Anorthite-Forstelite-Silica (Am. Journ. Sci. Vol XXXIX. 1915.)
- (19) Weinschenk, Beiträge zur Petrographie Japans. (N. J. P. M. P. Beil. Bd. VIII. 1890.)
- (20) Daly, R. A. Igneous Rocks and their Origin (Journ. Geol. Vol. XVI. 1908.)
- (21) Daly, R. A. Petrography of Pacific Islands. (Bull. Geol. Soc. Am. Vol. XXVII. 1916.)